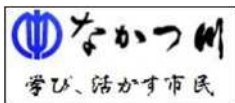


中津川市の未来を担う人材育成事業

「岐阜サマー・サイエンス・スクール 2021 in なかつがわ」



中津川市教育委員会 学校教育課

1. 事業の概要について

全国の中学生が科学の不思議さや楽しさを学ぶ「岐阜サマー・サイエンス・スクール (GSSS)」。
26回目となる今年度は、リモート会議にて開催しました。スクール生はAI (人工知能)、光通信、
生物、宇宙、ロボットといった最先端の科学、技術を各分野の第一人者である著名な講師から学び、
貴重な3日間を過ごしました。

【日 時】2021年8月4日 (水)～8月6日 (金) の3日間

【開催方法】オンライン会議システムを使用した講義形式で、市内中学生は自校から、市外の中学生は自宅にて参加しました。

『脳と人工知能』 甘利 俊一 東京大学名誉教授
『生物の時間をもとに、どう生きるべきかを考える』 本川 達雄 東京工業大学名誉教授
『暗黒が支配する宇宙』 杉山 直 名古屋大学副総長
『光通信とインターネット』 末松 安晴 元東京工業大学学長
スクールコーディネーター・実験担当 浅田 雅洋 東京工業大学教授
『進化するロボット達』 末松 良一 名古屋大学名誉教授



2. 岐阜サマー・サイエンス・スクールの歴史について

子どもたちの科学技術への関心の低下や自然とふれあう機会の減少が叫ばれる中、1995年に中津川市出身 (名誉市民) の末松安晴先生と市内小中学校の理科教師が中心となり、「第1回岐阜サマー・サイエンス・スクール in なかつがわ」が開催されました。

以来25年間、毎年夏休みに市内を中心に全国各地から、中学生が中津川市に集まり、合宿しながら、それぞれの専門分野の講師による講義や実習・実験を通して、科学の不思議さや、技術の素晴らしさを体感してきました。2020年は新型コロナウイルスの影響で一旦中止となりましたが、今年度、リモート会議によってスクールが再開されました。

これからの社会を担う青少年が、科学のおもしろさや不思議さ、楽しさを実感し、科学への興味・関心を高め、未来を担う人材を育成することを目的として実施し、これまで全国各地から2000人以上の中学生在参加しています。



3. 今年度の岐阜サマー・サイエンス・スクールの開催について

① コロナ対策としての打開策

昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。今年度は、これまで続けてきたスクールの再開するために、リモート会議で開催することにしました。市内の中学生は12の中学校をサテライト会場とすることで、これまでのスクールの雰囲気大切にしながら、参加しやすいように準備をしました。

本事業の魅力であるスクール生と講師との交流についても、質疑応答がスムーズにできるようにオンライン会議システムでの準備、リハーサルを重ねました。

② 当日の様子

今年度は県外からも含め139名の中学生が参加しました。各講義では、講師の話に真剣に聞き入るとともに、全ての講義においてスクール生から多くの質問が寄せられました。内容についても、講師の先生方がスクール生にわかりやすいように映像や実習を組み入れられ、課題解決を重視した講義をしていただきました。

末松安晴先生の講義は自宅から配信していただきましたが、光ファイバーの実験については浅田先生に大学から配信していただくことで、臨場感のある実験映像を視聴することができました。また、スクール生には事前に講義ノートとともに光ファイバーを送付しました。当日は各会場や自宅にて光ファイバーにライトをあてる実験を行いました。



4. 今後の岐阜サマー・サイエンス・スクールの開催について

① 成果と課題

- 5名の講師によるオンライン講義や実験を配信するとともに、スクール生による質問も活発にされ、これまでのスクール同様に双方向の講義が実現できました。
- 市外のスクール生が熱心に質疑応答をする姿に刺激を受け、市内のサテライト会場のスクール生も積極的に質問し、学びあう姿が見られました。
- リモート開催としたことでより多くの中学生が参加できました。
- 質疑応答を通して、講師との双方向のやりとりができることが魅力の一つである。講師の生き方や研究過程に関わる質問についても、積極的に取り入れていきたいと考えます。

② 来年度に向けて

今年度のリモート開催の成果と課題をもとに、より多くのスクール生に参加してもらえよう広報活動により一層力を入れていきたいと思います。

【生徒感想】

僕はこの3年生の最後の夏休みを利用して、少しでも自分の好きなことに没頭できるようにしたいと考えて受講しました。どの先生方の話にも興味を引かれるものがありました。人工知能の発達は人間がどう利用するかで薬にも毒にもなり得るということ。「私」は個体としてだけではなく遺伝子としても過去や未来にも続いているということ。観測できるのは見えている星々だけではなく見えない光で光った銀河たちでもあるということ。光ファイバーの通信技術がこれまでもこれからも社会を支えるということ。ロボットの日本と世界の歴史と未来への活用、人との共存のために考えることの大切さです。

これらの経験から日々の生活でも小さななぜに目を向け、科学の探究心を深めていきたいと思えます。この3日間は本当に充実したものになりました。

